

# 放射線量評価の問題点

2021年12月15日

原子力市民委員会

伴英幸(原子力資料情報室)

# 放出方針・計画の再検討が必要

- 「費用34億円と7年4ヶ月で放出完了」(決定理由)が破綻
  - + 海底トンネルの敷設費用(非公表)
  - + 風評被害対策基金300億
  - + 凍土遮水壁の凍結機は7年程度の使用を想定
    - すでに一部で解凍⇒凍結機の交換? 今後はどうなる?
  - 汚染水発生は今後も続く(2025年時点でも100m<sup>3</sup>/日発生)
    - 凍土遮水壁の状況では今後汚染水が増える可能性がある
  - 放出完了までに30年? 期間の公式発表なし
    - タンク外のトリチウム量は1490兆ベクレル  
(東電発表をもとに21年6月17日現在に直した値)

# 地下水の浸入防止が先決

- 汚染水の発生が続く、評価の前提が崩れている
  - 今回の評価は現在貯蔵中の汚染水量と放射エネルギーに限定
- タンク内の放射性物質の沈殿(スラッジ)は？
  - スラッジの抜き取りへの言及がない
  - スラッジを残したままでタンクが解体できるか？

# 許されない海洋環境の放射能汚染

64核種の総放出量が公開されていない！

(単位:ベクレル)

核種/年間放出量	半減期	K4タンク群	J1-Cタンク群	J1-Gタンク群
炭素14	5700年	17億	4億8,000万	13億
ストロンチウム90	29年	2,500万	97万	260万
テクネチウム99	21万年	8,100万	3,200万	1億1,000万
ヨウ素129	1600万年	2億4,000万	3,200万	2,700万
セシウム137	30年	4,900万	510万	2,700万
プルトニウム239	24000年	73,000	89万	230万
プルトニウム241	14年	320万	3,200万	8,100万

☆プルトニウム238・239・240の3同位体はそれぞれ同量が放出されるので、3同位体合計はこの3倍となる。

(ALPS処理水の海洋放出に係る放射線影響評価報告書p50~p55より作成)

# 被ばく評価が過小

- OBT形態のトリチウムが評価されていない
  - タンク内には微生物が存在し、一部はOBTとして放出される可能性がある
  - 食物連鎖での濃縮の可能性がある
  - 長寿命核種は蓄積する可能性がある
  - 10km四方の全層平均濃度での内部被ばく評価は不十分
- 長期的な被ばく評価が必要